

自	分	色	
は	っ	け	ん

vol.6

区内で活躍する男女共同参画人



(株)はとバス
バスガイド

みくに らん
三國 蘭さん

profile

2001年東京都生まれ。
高校卒業後、2019年度に「はとバス初」の男性バスガイドとして入社。東京エリアを皮切りに、横浜、鎌倉、横須賀、三浦半島まで担当コースを広げている。

お客様の心に変化が生まれるご案内を！

性別に関わらず、
希望の職種を選べる時代に

高校卒業後、2019年にバスガイドとしてはとバスに入社しました。同期の中で男性は私と松尾の2人ですが、弊社では以前から社員の採用規程に性別の制限は設けられていませんでした。

入社前、私がバスガイドになることについては、家族や友人から反対されたり奇異に思われたりすることはありませんでした。「バスガイドといえば女性」が当たり前だったと昔前と比べると、自分のやりたい道に進めた私はいい時代に生まれたのかもしれません。

ただ、会社としては「初」となるので、社内的には色々準備が必要だったようです。私が入社したのと同じ年に、それまでガイドだった女性1人が運転士へと職種変更しました。それに合わせて、男性のバスガイド用と女性の運転士用の更衣室が新設されました。

私にとっての
バスガイドの醍醐味

志望のきっかけは、高校の修学旅行先の沖縄でお世話になったベテランのバスガイドさんです。平和祈念公園に並ぶ「平和の礎(※)」の前で、涙を浮かべながら戦争の悲惨さを伝えるその姿が心に響き、大変印象に



残ったのです。それで東京に戻ってから観光バスガイドという職種について色々調べ、興味を深めていきました。そして、当時から接客業のアルバイトをしていた経験から人と関わりたいことへ表現を通じて何かを伝えたいのが掛け合わさってバスガイドになること決めたのです。

デビューしてまだ1年半ですが、研修や仕事で都内を巡るたびに新しい発見があり、東京で育ったわりには名所の歴史や由来なども知らなかったと痛感しています。これまで知らなかったことがたくさん発見できるといふ貴重な体験をさせてもらっています。

この仕事で一番やりがいを感じるのは、コースが終わってお別れの挨拶をした後にお客様から拍手をいただいた時と、バスから降りられる際に掛けられる「ありがとう」の一言です。それは、心からホッとする瞬間でもあります。

お客様の心に響く
ガイドを目指して

職場の同期は女性ばかりですが、みんなとても温かく接してくれ、私が男性だからといって困ることはありません。

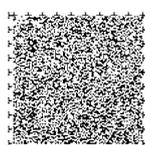
りません。また、私や松尾が輪にとけ込めるよう常に気にかけてくれます。

しかし、一般には男性でバスガイドというのはまだ珍しいのが、驚かれることもありですが、お世話になっているお店の方々にはすぐに覚えていただき、よく声を掛けてくださいます。

バスガイドというと車内の前の方に立つて決められた観光案内を「話す人」と思われますが、私にとってご案内する時のそこは一つのステージであり、バスガイドとはそこに立つ「表現者」だと考えています。ですから私は、修学旅行で思いを込めて伝えてくれたあのガイドさんのようになればと常に心がけています。観光箇所のご案内で戦争という暗い歴史に触れるときでも、単に史実を話すのではなく、「平和とは何か?」と、お客様自身で問い直していただけるような、心境の変化が生まれるご案内ができる立派なバスガイドになりたいです。



三國さんの話の中に登場したもう一人の男性バスガイドの松尾龍治さん(長崎県出身)。コミュニケーション力の向上のため、また、人々に楽しんでいただけるような仕事をしたいと考え、見つけたのがガイドの仕事でした。その後思い切って入社試験を受け、現在にいたります。



※沖縄戦などで亡くなられたすべての人々の氏名を刻んだ記念碑のこと。また、建物の基礎の「いしづえ」を沖縄方言で「いしじ」と発音する。